

IHRR-11th Dwd Conference で研究成果を発表しました (2017/9/19-22)

テーマ：災害の社会的影響

場所：Durham 大学 (DURHAM, ENGLAND, UK)

URL：<https://www.dur.ac.uk/ihr/10th-anniversary/ihr10/dwd-conference2017/>

2017年9月19日(火)から22日(金)の4日間、英国 Durham大学の Institute of Hazard, Risk and Resilience (IHRR)の開設10周年を記念して、同研究所と、英国Northumbria大学を中心とする Disaster and Development Network (DDN)の共催により、11th Dealing with Disaster (Dwd) Conference が開催されました。DDNは災害を取り扱う英国の大学の研究共同体で、地理学、社会学などの人文・社会科学系の比重が高いため、参加者の多くは、英国の大学の人文・社会科学分野の研究者でした。また、DDNの各大学はアジア・アフリカ諸国の災害調査・復興支援のプロジェクトに積極的に関わっていることから、フィリピン、インドネシア、ネパール、ミャンマー、マレーシアからの参加者もあり、6件の基調報告と83件の研究発表が行われました。また、IHRRは2015年ネパールゴルカ地震後の調査結果を「Evolving Narratives of Hazard and Risk」という書籍にまとめ、IHRR10周年記念としてPalgrave社から出版されました。21日(木)の夕刻には、ネパールの著者も招いてその出版祝賀行事が開催されました。

当研究所からは、奥村誠教授(人間・社会対応研究部門)が「Hazard, Risk and Mobility」のセッションにおいて、2015年国勢調査データに基づく東日本大震災後の都道府県間人口移動の分析結果に関する口頭発表を行いました。講演題目は次の通りです：

【口頭発表】

Makoto Okumura: Japanese inter-regional migration patterns affected by 2011 Tohoku Disaster, analyzed with 2015 Japan Population Census.



Durham 大学 IHRR の建物
(左) と会場の講義棟 (正面)



ネパール地震調査書籍の著者



口頭発表 (奥村教授)

文責：奥村 誠 (人間・社会対応研究部門)